

平成 22 年 4 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19590689

研究課題名（和文） 思春期過敏性腸症候群の発症因子と長期予後に関する前向き調査

研究課題名（英文） A prospective study of etiological factors and long-term prognosis in adolescent Irritable Bowel Syndrome

研究代表者

遠藤 由香 (ENDO YUKA)

東北大学・病院・助教

研究者番号：00343046

研究代表者の専門分野：医学

科研費の分科・細目：公衆衛生

キーワード：思春期、過敏性腸症候群、発症因子、長期予後、自己効力感、クオリティ・オブ・ライフ、トラウマ

## 1. 研究計画の概要

本研究では、中学三年生を追跡調査することにより、過敏性腸症候群の有病率とその症状変化を把握し、感染・ストレス・進学などの因子が及ぼす影響、有症状者が患者に変化する契機を検討する。また、同時に自己効力感 (self-efficacy) および Quality of Life (QOL) の変化も追跡する。さらにトラウマに関する調査を行うことにより、トラウマの種類や受けた時期と症状出現時期を検討し、自己効力感の低さやトラウマ的体験が過敏性腸症候群の発症率を増加させるという仮説を検証する。

## 2. 研究の進捗状況

2007 年度は質問紙の作成を行った。過敏性腸症候群 (IBS) の診断用に Rome-II modular questionnaire、IBS の症状評価に self-reported IBS questionnaire、自己効力感の評価に generalized self-efficacy scale、健康関連クオリティ・オブ・ライフ (QOL) の評価に SF-36、失感情症評価に Toronto alexithymia scale 20、疾病罹患時の親の態度の評価用に病的行動質問紙 (親用および子供用) を用い、これに生活歴や自覚ストレス、トラウマなどに関する質問を付加した。また、調査に協力してくれた学校へ配付するための疾患教育用パンフレットや県内の IBS に対応可能な医療機関リストを作成した。

2008 年度には、宮城県内の各教育事務所管轄区域の人口数に比例させて対象者数を

割り出し、区域内の無作為に抽出した中学で三年生に対しアンケートを配付した。回答は無記名とし、個別に郵便にて返送してもらった。初回の質問紙配布では回答数が予定数に満たなかったため追加調査を行い、計 603 名より回答があった。

2009 年度は、前年度に回答のあったものうち、紙面にて生徒本人および保護者から同意を得た 370 名が追跡調査に参加した。郵送にて個別に質問紙を郵送し、回答後返送してもらった。前回調査から 12 ヶ月後に再調査を行うため、追跡調査は 2 回に分けて行った。現在前半分の追跡調査は終了し、まもなく後半分の調査を開始するところである。

## 3. 現在までの達成度

③ やや遅れている

(理由)

初回調査時に、学校側の要請で調査時期を変更しなければならず、加えて当初の見込み数に回答数が足りず追加調査を行ったため、やや遅れが生じている。

## 4. 今後の研究の推進方策

今回の研究の遅れは回収時期がずれ込んだことが原因であるため、今後は予定通りに進行する見込みである。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

1. 遠藤由香、福土審、庄司知隆、他7名  
高校生における過敏性腸症候群の特徴  
心身医学 47: 641-47, 2007、査読あり
2. 遠藤由香、福土審、庄司知隆、他5名  
中学三年生における過敏性腸症候群とストレス  
ストレス科学 21: 208-216, 2007、査読なし

〔学会発表〕(計6件)

1. 心理的ストレスと身体反応-思春期におけるストレスと過敏性腸症候群 遠藤由香  
第1回日本心身医学5学会合同集会(東京)  
平成21年6月7日
2. 思春期過敏性腸症候群において自己効力感が症状および健康関連クオリティ・オブ・ライフに与える影響  
遠藤由香、木村裕子、福土審、庄司知隆、相模泰宏、森下城、町田知美、町田貴胤、金澤素、本郷道夫  
第49回日本心身医学会総会(札幌)  
2008年6月12日

3. Low self-efficacy affects symptoms and quality of life in adolescents with irritable bowel syndrome  
Yuka Endo, Shin Fukudo, Tomotaka Shoji, Yasuhiro Sagami, Joe Morishita, Yuko Kimura, Tomomi Machida, Takatsugu Machida, Michio Hongo  
AGA, 19.May.2008, San Diego